

でのRu-O-Ru二核錯体の研究をした経験です。一つの化合物と向き合い、いろいろな分野の視点から徹底的にデータを精査したり過去の研究をサーベイしたりして「何が面白いのか？」と考えた分子研での経験が身についていたお陰で、何とか途切れずに成果を出すことができ、その中から「もしかしたら自分の研究はこういうものなのか？」のようなものがおぼろげながらも見え始めているような気がします。

最後に、北大着任後の研究のうち、分子研での垣根の低い交流で学んだ視点からの着想が特に色濃い成果を2つほどご紹介いたします。まず1つ目は、メタノール蒸気の吸脱着によって色とスピン状態とを変化させるニッケル(II)錯体です (*Angew. Chem. Int. Ed.*, **2017**, 56, 2345.). もともとこの錯体は思いがけず取れたものだったのですが、前述のRu-O-Ru錯体の研究の時に中村先生に磁性のことをご指導いただいた経験から「磁性を測定すれば面白いのでは？」と思いつき、その方針でまとめることができました。2つ目は、ビフェ

ニル配位子を有するメタラサイクル型の強発光性白金(II)錯体です (*Chem. Eur. J.*, **2020**, 26, 5449.). この錯体は従来は嫌気条件下で禁水試薬を用いないと合成できないようなものでしたが、有機ボロン酸のトランスメタル化を利用することで空気下でも簡単に合成できるようになりました。この着想は、完全に分子研時代の有機化学系の研究室との交流から得られたものです。その他にも、分子研時代の後輩とコラボレーションして私の論文の表紙イラストを制作してもらったりと (*Dalton*

Trans., **2021**, 50, 8696; *Adv. Opt. Mater.*, **2022**, 10, 2102614.), 分子研時代の経験や人脈は今でも私の研究の大事な一部を構成しています。

とはいえ、私はまだまだ任期付きの身分であり、生きていくために早急に次の職を探さないといけません。分子研でお世話になった先生方・皆さまと次にお会いした時に「吉田も頑張っているな」と思っていただけのように引き続きしっかり精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。



ラボのメンバー。1列目左から2番目が筆者。

湊 丈俊 主任研究員

さんのへまち

三戸町ふるさと応援大使

2021年10月より、生まれ故郷である青森県三戸町のふるさと応援大使を拝命しております。ふるさと応援大使と聞くと、芸能人などが担う役割のようにも感じるかも知れませんが、三戸町のふるさと応援大使は、私の他に、三戸町にゆかりのある俳優、騎手（私の同級生の武士沢友治氏）、自衛官（元ブルーインパルス飛行隊長）、会社役員、テレビ局アナウンサー／リポーター、学習アドバイザー、落語家、

医師、りんごを普及させる会の会長などが任命されており、各自がそれぞれの活動の中で町をPRしております。以前より私は、故郷に何らかの形で貢献したいと思っておりましたので、ご依頼を快諾させて頂きました。三戸町は、「11ぴきのねこ」の作者である馬場のぼる氏の出生地として知られていますが、私にとっては、夏は虫取り、冬は雪遊びが楽しめる自然や、おいしいりんごジュース（図1）があり、お互いを大切にする町です。この記事を通じて、三戸町の名前を憶えて頂ければ幸いです。実は、分子研に勤務している方の中には、私以外にも三戸町にゆかりのある方がいますので、是非探してみてください……。 （湊 丈俊 記）



図1 三戸町のりんごとりんごジュース。